

令和5年7月15日(土) 令和5年度第3回考古学講座

# 旧石器研究のあゆみと 伊勢原の遺跡



伊勢原市教育委員会 葉山貴史

## 第1部 旧石器時代研究のあゆみ

### 旧石器研究前史

1836年(天保7)、デンマークのトムセンによって、人類の歴史が道具の原材料によって三時期に区分されることが示されました。さらにイギリスのラボックにより、トムセンが石器時代と区分した時代をさらに細分し、新しい時期を「新石器」、古い時期を「旧石器」とする用語を提唱しました。この学説がアメリカ人モースにより日本にもたらされ、以来、日本国内で考古学調査が進められるようになりました。しかし、火山活動が活発であった日本の旧石器時代においては人類の活動はないというのが当時の一般的な常識であったため、国内での旧石器時代遺跡の発見は他の時代に遅れることになります。

### 岩宿の発見

1949年(昭和24)に群馬県岩宿遺跡が調査され、関東ローム層の中から石器が見つかったことから、日本の旧石器時代研究が本格的に始まりました。その後、国内初となる旧石器時代遺跡の報告書として岩宿遺跡の報告書が1956年(昭和31)に刊行されました。現在ではいくつかの研究の方向性と方法が確立されていますが、この岩宿遺跡の報告書の中で、既に「編年研究」や「遺跡構造研究」等の指針と視点が示されました。

### 偽石器問題

岩宿遺跡の発見以降、他の遺跡でも旧石器が確認されるようになりました。これにより、日本の旧石器時代は一体どこまで遡るのか、という課題が出てきます。そこでまず着目されたのが、青森県の金木遺跡において、ローム層の下に堆積している砂礫層中から見つかった石器によく似た石、そして大分県丹生遺跡で発見された礫器です。金木遺跡の資料は観察の結果、人工的に作られたものではない「偽石器」であるということ、丹生遺跡の事例は発見された層が明らかでないことから、どちらも現在まで旧石器時代の石器とは認められていません。このことから、石器の観察、出土した地層という二つ視点が旧石器研究において重要であるということがわかりました。

### 砂川遺跡の発掘と個体別資料研究

1960年代後半～1970年代にかけて、高度経済成長に伴い遺跡の発掘調査も増加し、旧石器時代研究も新しい段階に入ります。その一つが1968年(昭和43)に埼玉県で発見された砂川遺跡の調査です。石器ブロック(遺物集中地点)間に

おける石器接合資料を母岩別に分類し、遺跡が形成される過程を復元することで人間の動態を把握することが可能になりました。

#### 月見野・野川遺跡の発掘

その個体別資料研究は1969年(昭和44)に実施された神奈川県大和市の月見野遺跡群においても実践されました。さらにこの遺跡群の調査では、広範囲の調査地を面的に調査することにより、それまで考えられていたよりも旧石器時代の遺跡が広い範囲で平面的に広がっていることがわかりました。さらに、東京都野川遺跡の調査では立川ローム層中から重複して10もの石器群が検出され、超重層的な旧石器時代遺跡として大きな発見となりました。この二つの遺跡の発見から、旧石器時代研究の中で「月見野・野川以前と以後」として一つの画期であると評価されています。

#### 環状ブロック群の発見

1982年(昭和57)群馬県しもぶれうしぶせの下触牛伏遺跡の調査が行われました。総面積40,000㎡を超す広範囲での発掘調査であったため、調査自体は小範囲に分けた形で行われました。しかしその後の整理作業の中で、石器の集中地点がドーナツ状に配列されていることがわかりました。これは全国でも初の発見であり、このような分布を呈する遺物集中地点の集まりを「環状ブロック群」と名付けられました。現在では全国的に確認されていますが、その形態は様々で、環状の内側にさらに集中地点をもつ形、環状の外側に集中地点をもつ形、数種類に分類することができます。

#### 捏造事件

1960年代から続けられていた「日本の旧石器時代は前期・中期まで遡るのか」という論争は、一つの遺跡の発掘によって新たな局面を迎えます。宮城県で調査された座散乱木遺跡ざざらんぎにおいて、確実に3万年前以上まで遡る地層中から石器が遺物集中として発見されたのです。その後も、同じ調査団によって20年以上にわたり前期・中期旧石器時代の遺跡が発見され続けましたが、2000年(平成12)宮城県上高森遺跡でのスcoopにより、その全てが捏造によるものであると判明しました。このことは旧石器時代研究のみならず、考古学界全体に対する信頼失墜につながる大事件となりました。

#### 田名向原遺跡の発掘

そのような事件と前後する形にはなりませんが、旧石器時代の「住まい」に関する大きな発見が神奈川県内でありました。相模原市で調査された田名・向原遺跡

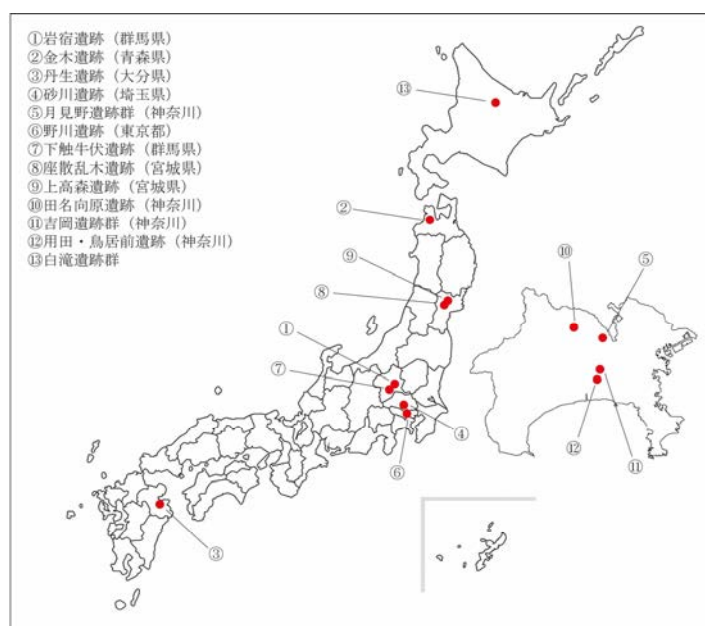
で確認された住居状遺構です。それまでの研究では、簡素な作り方をすると考えられていた旧石器時代の「イエ」はローム層中で検出することは困難であり、遺物集中地点がイエの中か、外かということについて議論されてきました。しかし、この遺構の発見により、少なくともこの遺跡においては円形に並ぶ柱穴の内部に遺物が集中していることが判明しました。

#### 広域幹線道路開発に伴う発掘

捏造事件が発覚した後、逆風に立たされながらも全国の発掘調査担当者は、地道に正確に調査を続けてきました。特に近年では、新東名高速道路をはじめ、圏央道や各種バイパス工事等の大規模開発に伴う発掘調査が数多く行われてきました。このような大規模な発掘調査が間を置かず実施され、同時に整理されたことがきっかけで判明したこともあります。約 2km 離れた遺跡間で石器の接合が確認できた綾瀬市の吉岡遺跡群と藤沢市の用田・鳥居前遺跡の事例です。これにより、当時の人々の移動の痕跡をたどることができました。

#### 今後の旧石器研究の可能性

岩宿の発見から 70 年以上の歳月を経た現在でも、各地で旧石器時代遺跡の調査が行われ、資料が増加することで石器製作の実態や時期ごとの特徴等を詳細に分析できるようになってきています。過去の調査・研究資料も何度も見直され、今年には北海道の白滝遺跡群の資料が旧石器時代資料としては初めて国宝に指定されるというニュースもありました。将来的にはデジタル技術の発達に伴い分析精度の向上が期待されるかもしれません。また、文化庁が「水中遺跡ハンドブック」を作成したことにより、これまで調査の手が及ばなかった水中にも視点を向ける必要があるでしょう。旧石器時代の研究はまだまだ可能性が広がります。



第 1 図 研究史上の遺跡の位置

## 第2部 いせはらの遺跡

### 【伊勢原市の文化財】

「秀峰、大山の麓に広がる伊勢原市は、温暖な気候に育まれた緑あふれるまちである。その恵まれた環境が人々の暮らしを支え、今に至る永い歴史を培ってきた。

旧石器時代の太古から人々が暮らし、丘陵地には縄文時代の集落、山裾には県下随一の副葬品を誇る古墳が築かれた。鎌倉幕府と縁の深い社寺も多く、太田道灌が活躍した戦乱の世を経て、江戸時代には大山詣りの参詣客でにぎわった。こうした先人たちの歩みを語るのが文化財である。

地域の文化、文化財は、過去にも天災や人災による存亡の危機に直面してきた。また、戦後の急激な社会変化は暮らしを豊かにした反面、地域社会を変え、永く育まれてきた伝統文化に重大な影響を与えた。今、その流れを振り返る中で、私たちは地域のつながりを支える文化の大切さを認識している。

伊勢原市は、首都圏の近郊都市として成長を遂げてきた。また、今後の広域幹線道路の整備や少子高齢社会の進展等、都市及び社会構造の変化が更なる地域の変革をもたらすと予想されている。

地域の文化と文化財を守り、未来へと引き継ぐことは、今を生きる市民の責務であり、私たちが目指す文化の香り高い都市の創造へと続く一歩となる。

この認識のもと、文化財の適切な保存、継承、更にまちづくりへの活用に資するため、市、市民、事業者及び文化財の所有者が役割を認識し、自主的な参画が図られることを目指し、この条例を制定する。」(伊勢原市文化財保護条例 前文)



### 【伊勢原市の概要】

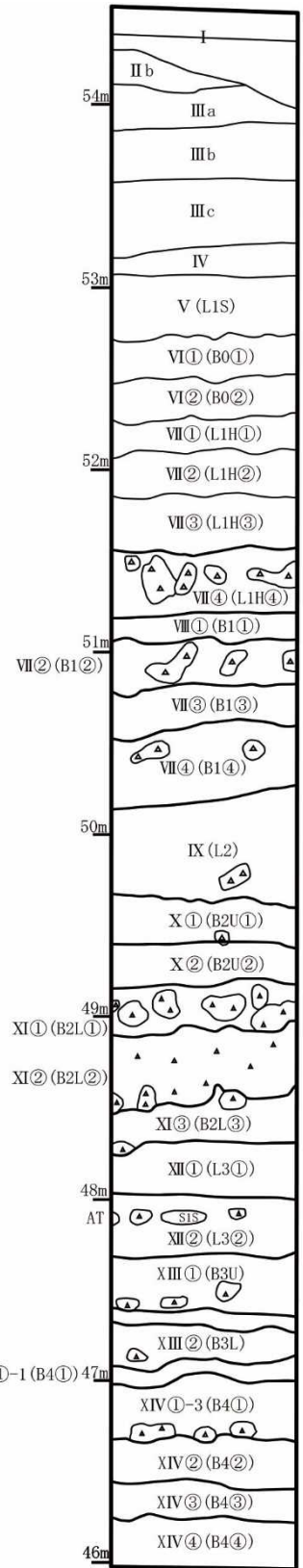
面積：55.56 km<sup>2</sup>  
標高：1251.7m ~ 8.1m  
人口：約 101,500 人

第2図 伊勢原市の位置

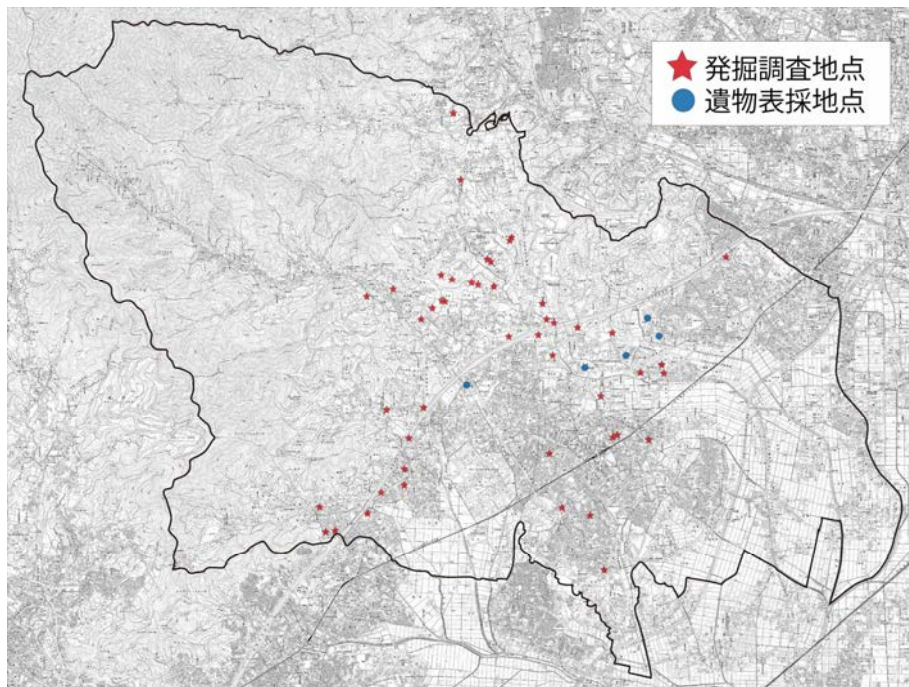




第3図 伊勢原全図



第5図 □-△標準土層図  
(麻生他 2019 を一部改変)



第4図 伊勢原市内の旧石器時代遺跡

【伊勢原の遺跡】 太字は石器群中で出土比率の高い石材

(1) 沼目・坂戸遺跡 (伊勢原地区)

所在地 ...伊勢原四丁目 1710-9 番地  
主な出土遺物...細石刃、細石刃核、尖頭器、石斧、他  
主な石器石材...**黒曜石**、凝灰岩、安山岩、粘板岩  
出土層位 ...L1S ~ B0

(2) 東大竹・山王塚遺跡 (伊勢原地区)

所在地 ...東大竹字山王塚 1370-3 番地外  
主な出土遺物...尖頭器、剥片、他  
主な石器石材...**ガラス質黒色安山岩**、**黒曜石**  
出土層位 ...L1S ~ B0

(3) 三ノ宮・宮ノ前遺跡 (比々多地区)

所在地 ...三ノ宮字宮ノ前 1486 番地他  
主な出土遺物...有舌尖頭器、尖頭器、石斧、他  
主な石器石材...**ガラス質黒色安山岩**、**黒曜石**、凝灰岩、粘板岩  
出土層位 ...L1S ~ B0

(4) 栗窪・林遺跡 (成瀬地区)

所在地 ...栗窪地先  
主な出土遺物...台形様石器、剥片、他  
主な石器石材...**凝灰岩**、**黒曜石**、チャート  
出土層位 ...B4

(5) 子易・大坪遺跡 (大山地区)

所在地 ...子易地内  
主な出土遺物...スクレイパー、剥片  
主な石器石材...**黒曜石**  
出土層位 ...B0、L2

(6) <sup>かみかさや</sup>上粕屋・<sup>あきやまかみ</sup>秋山上遺跡 (高部屋地区)

所在地 ...上粕屋字秋山上 2900-1 外 11 筆  
主な出土遺物...ナイフ形石器、尖頭器、剥片、他  
主な石器石材...凝灰岩、他  
出土層位 ...B0 ~ B1

(7) 西富岡・向畑遺跡 (高部屋地区)

所在地 ...西富岡 120 番地他  
主な出土遺物...ナイフ形石器、尖頭器、剥片、他  
主な石器石材...凝灰岩、黒曜石、チャート、安山岩  
出土層位 ...L1H ~ B2

(8) <sup>にしとみおか</sup>西富岡・<sup>ながたけ</sup>長竹遺跡第 3 次調査 (高部屋地区)

所在地 ...西富岡字長竹 981-13 他

《第 文化層》

主な出土遺物...尖頭器、他  
主な石器石材...黒曜石、ホルンフェルス  
出土層位 ...ローム漸移層 ~ L1S

《第 文化層》

主な出土遺物...細石刃、細石刃核、尖頭器、他  
主な石器石材...黒曜石、安山岩、ホルンフェルス、他  
出土層位 ...L1H 上部

《第 文化層》

主な出土遺物...ナイフ形石器、尖頭器、彫器、他  
主な石器石材...黒曜石、安山岩、チャート、他  
出土層位 ...B1 上部

《第 文化層》

主な出土遺物...ナイフ形石器、剥片、他  
主な石器石材...頁岩、凝灰岩  
出土層位 ...B1 下部

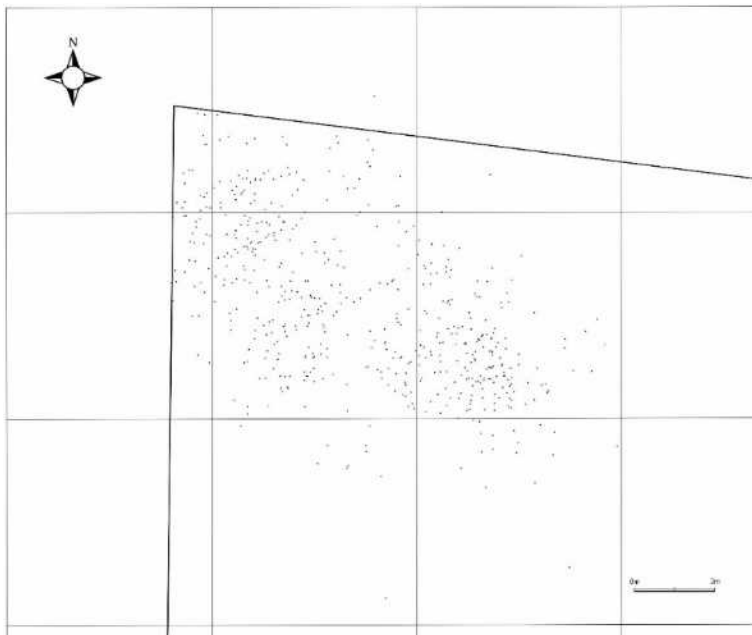
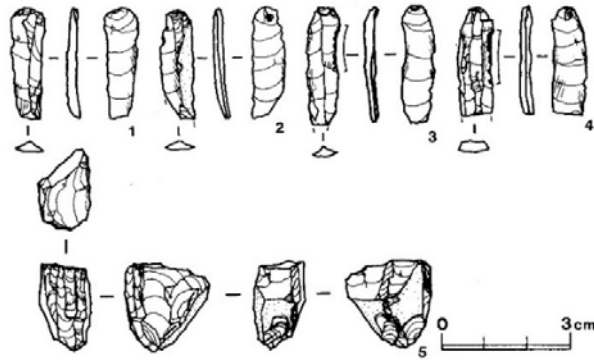


《第 文化層》

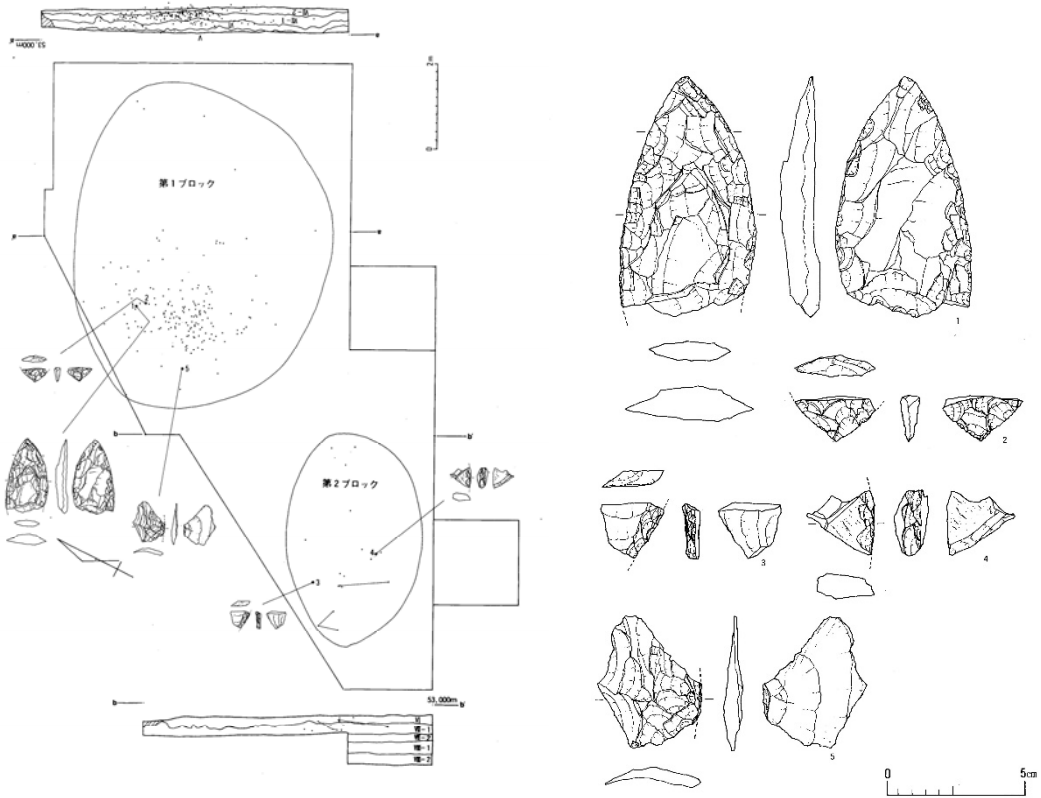
主な出土遺物...ナイフ形石器、スクレイパー、他  
主な石器石材...黒曜石、凝灰岩、ホルンフェルス  
出土層位 ...B2L 上部

《第 文化層》

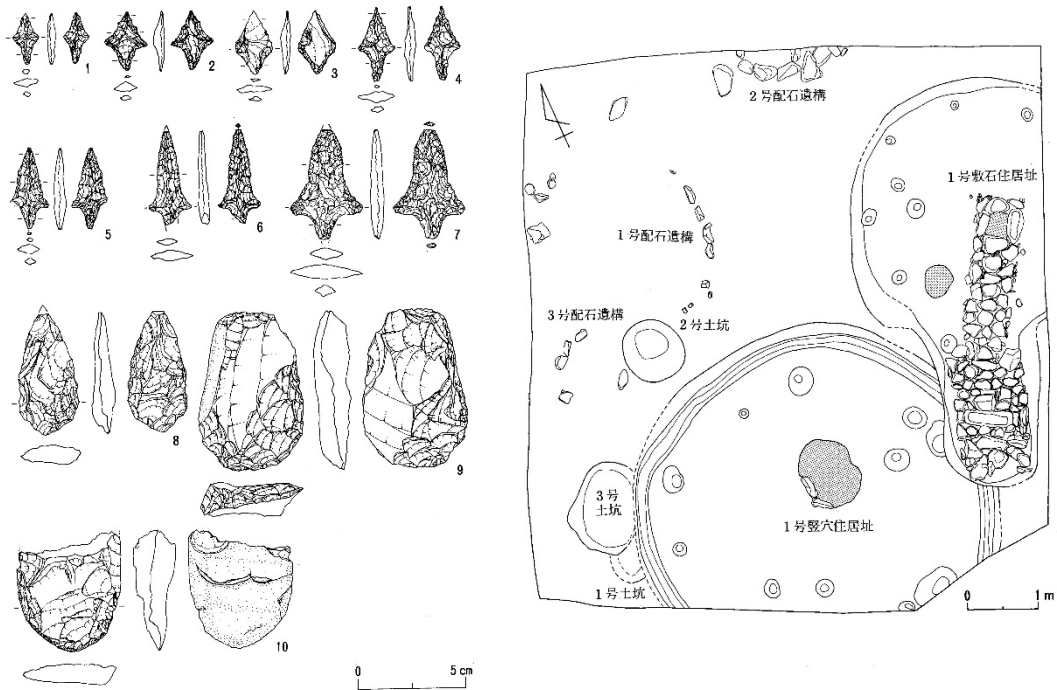
主な出土遺物...剥片、石核、他  
主な石器石材...黒曜石、頁岩  
出土層位 ...B4



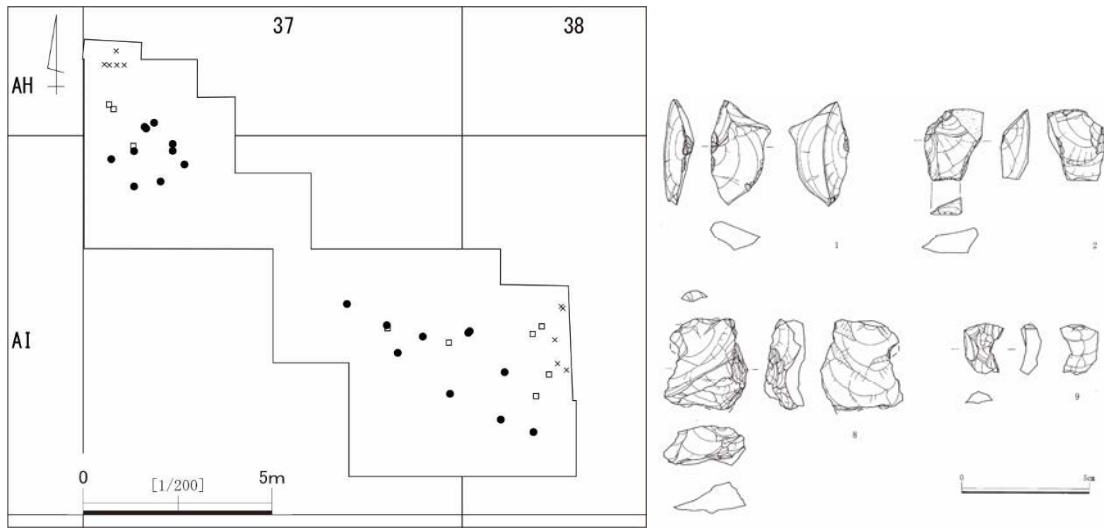
第 6 図 沼目・坂戸遺跡の出土遺物と遺物分布図（伊勢原市教育委員会 1992）



第7図 東大竹・山王塚遺跡の出土遺物と遺物分布図（伊勢原市教育委員会 1992）



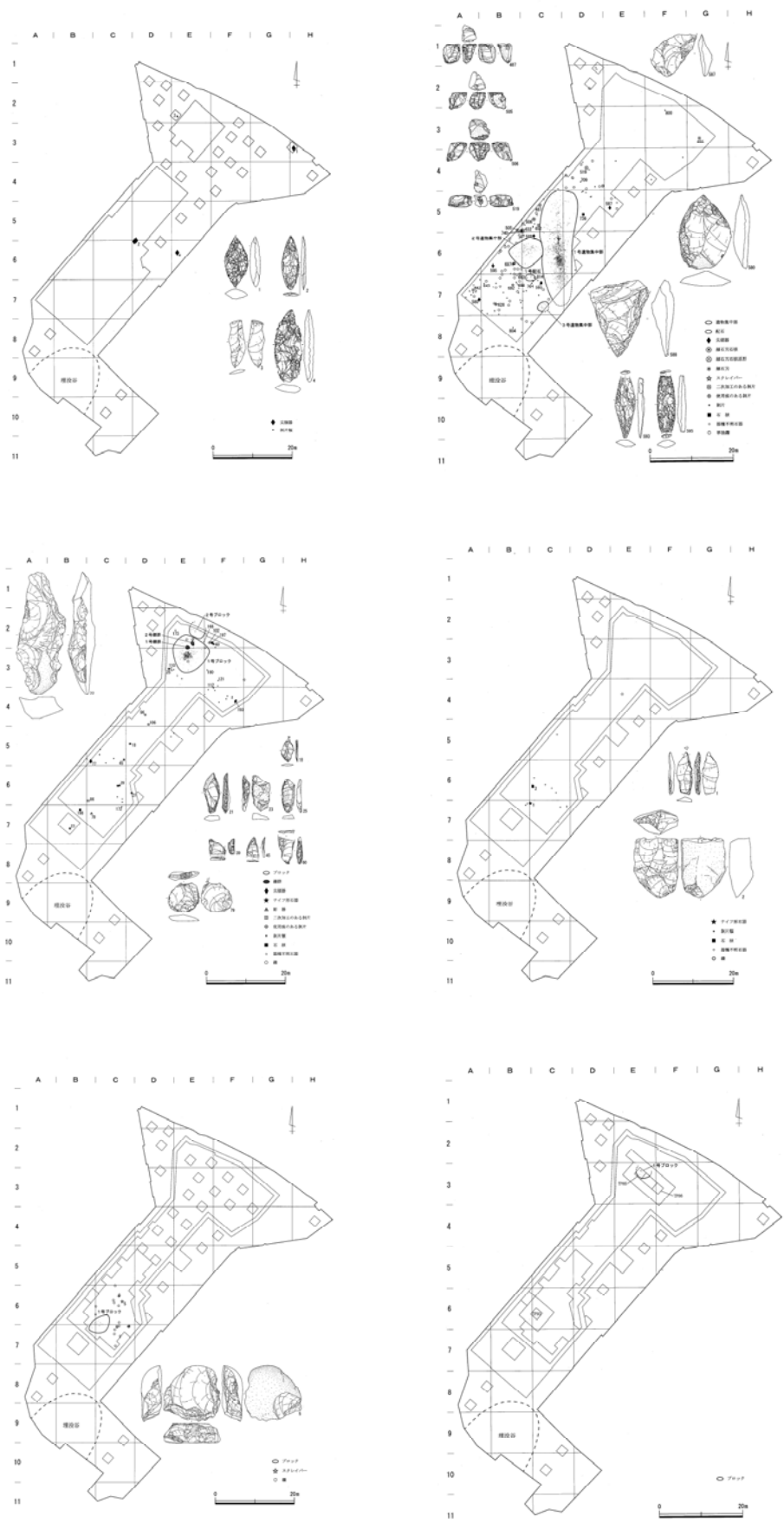
第8図 三ノ宮・宮ノ前遺跡の出土遺物と遺物分布図（伊勢原市教育委員会 1992）



第9図 粟窪・林遺跡の出土遺物と遺物分布図（木村他 2023、脇 2020）



第10図 西富岡・向畑遺跡の出土遺物と遺物分布図  
 （公益財団法人かながわ考古学財団 2012）



第 11 図 西富岡・長竹遺跡第 3 次調査の出土遺物と遺物分布図(麻生他 2019)

### 【研究史上の報告書・論文等】

- 金関丈夫・山内清男・佐藤達夫 1962年 「大分県丹生遺跡の旧石器」『日本考古学協会第28回総会研究発表要旨』 日本考古学協会
- 栗原伸好他 2002年 『用田・鳥居前遺跡』 (公財) かながわ考古学財団
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1968年 『下触牛伏遺跡 身体障害者スポーツセンター建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 小林達夫・小田静夫・羽鳥謙三・鈴木正男 1971年 「野川先土器時代遺跡の研究」『第四紀研究』10巻4号 日本第四紀学会
- 相模原市教育委員会 2004年 『田名向原遺跡 史跡田名向原遺跡保存整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告及び研究調査報告』
- 杉原荘介 1954年 「青森県金木砂礫層出土の偽石器」『INQUA 日本支部連絡誌』No.7(杉原荘介 1974年 『日本先土器時代の研究』 講談社 所収)
- 杉原荘介 1956年 『群馬県岩宿発見の石器文化』(『明治大学文学部研究報告』考古学第1冊 明治大学)
- 角田文衛 1962年 「大分県丹生台地発見の石器類」『日本考古学協会第28回総会研究発表要旨』 日本考古学協会
- 明治大学考古学研究室・月見野遺跡群調査団 1969年 『概報 月見野遺跡群』
- 吉田政行他 2003年 『吉岡遺跡群』 (公財) かながわ考古学財団

### 【伊勢原の旧石器時代遺跡関連調査報告書等】

- 麻生順司他 2019年 『西富岡・長竹遺跡第3次調査』 (株) 玉川文化財研究所
- 伊勢原市教育委員会 1990年 「三ノ宮・宮ノ前遺跡」『文化財ノート第1集』 伊勢原市教育委員会
- 伊勢原市教育委員会 1990年 「沼目・坂戸遺跡」『文化財ノート第1集』 伊勢原市教育委員会
- 伊勢原市教育委員会 1992年 「東大竹・山王塚遺跡」『文化財ノート第2集』 伊勢原市教育委員会
- 木村吉行他 2023年 『粟窪・林遺跡 粟窪・林台遺跡 粟窪・四石田遺跡』 公益財団法人かながわ考古学財団
- 公益財団法人かながわ考古学財団 2012年 『平成24年度西富岡・向畑遺跡見学会配布資料』
- 脇幸生 2020年 「旧石器時代」『平成30年度考古学特別研究講座 大山が紡ぐ歴史遺産～東名から新東名～ 記録集』 公益財団法人かながわ考古学財団



### 【旧石器時代概説書】

安蒜政雄 2017年 『日本旧石器時代の起源と系譜』 (株)雄山閣

諏訪間順 2019年 『相模野台地の旧石器考古学』 (株)新泉社

堤隆 2009年 『ビジュアル版旧石器時代ガイドブック』(株)新泉社

### 【伊勢原市の文化財を調べたい方へ...】

伊勢原市教育委員会 『史跡と文化財のまち いせはら』

いせはら文化財サイト (<https://www.city.isehara.kanagawa.jp/bunkazai/>)



### 【伊勢原市内で令和5年度内開催予定の埋蔵文化財関連行事】

令和5年度公開セミナー(かながわ考古学財団主催、12月9日(土)開催)

考古資料展(伊勢原市教育委員会主催、2月頃開催予定)

遺跡調査報告会(伊勢原市教育委員会主催、3月頃開催予定)

遺跡見学会(随時)



表紙写真：目黒 久仁彦氏撮影